



BAPCo[®] MobileMark[®]

2018 ユーザーガイド

改訂：1.3

概要	5
セットアップ.....	6
イメージの構成.....	6
Microsoft Office の削除.....	6
MobileMark [®] 2018 のインストール	7
アンインストール.....	12
MobileMark [®] 2018 の実行	13
MobileMark [®] 2018 のインターフェイス	14
Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダー	14
結果の生成と表示.....	16
その他の結果の表示.....	16
結果の送信	17
MobileMark 2018 から送信する	17
ウェブブラウザで結果を送信する	17
自動インストール.....	18
インストーラーの終了コード.....	19
自動実行	20
自動データ収集.....	21
ベンチマークの設定.....	22
システム構成ツール.....	23
必須	24
推奨	25
任意	28

コマンドラインからのシステム構成.....	29
ベンチマークの使用状況.....	31
ベスト・プラクティス.....	31
ヘッドアップ・ディスプレイ (HUD).....	31
[Process idle tasks] (プロセス・アイドル・タスク).....	32
キーボード/マウス入力のブロック.....	32
エラー処理.....	32
進行中の実行を停止する.....	33
リファレンス・システム.....	34
Lenovo® ThinkPad™ T480s.....	34
アプリケーション.....	35
[Productivity] (生産性).....	35
[Creativity] (創造性).....	35
[Web Browsing] (ウェブ・ブラウジング).....	35
シナリオ.....	36
[Productivity] (生産性).....	36
[Creativity] (創造性).....	36
[Web Browsing] (ウェブ・ブラウジング).....	36
サポート.....	37
MobileMark® 2018 ベンチマーク・ルール v1.2.....	38
ベンチマークの実行.....	38
ワークロード・マネージャー.....	38
オペレーティング・システム.....	39
システム構成.....	39

ハードウェア.....	39
ソフトウェア.....	40
パフォーマンスまたはバッテリー持続時間の向上.....	40
ワイヤレス接続.....	40
画面の輝度.....	41
画面オフ.....	41
モダン スタンバイ	41
Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダーとバッテリー・セーバー・モード	42
完全公開レポート	42
結果の公開.....	43
販売状況.....	44
FDR 処理	44
非 OEM プラットフォームでの結果の公開	45
競合比較結果の公開.....	45

概要

MobileMark[®] 2018 は、アプリケーション・ベースの、パフォーマンス・テストに基づいたバッテリー持続時間ベンチマークであり、PC の購入を決定する際にユーザーを支援することを目的としています。

セットアップ

MobileMark 2018 をインストールまたは実行する前に、テストシステムがベンチマークの実行に推奨されている最小システム構成要件を満たしていることを確認してください。

- **CPU** : 1.50 GHz AMD[®] またはインテル[®] デュアルコア・プロセッサ
- **RAM** : 4 GB
- **HDD / SSD** : プライマリー・ドライブ上の 25 GB の空き容量
- **オペレーティング・システム** : Microsoft[®] Windows[®] 10 (64 ビット版)
- **解像度** : 1280x800 または 1366x768
- **グラフィックス** : DirectX 10 互換
- **ネットワーク** : Wi-Fi ネットワークに関連付け、インターネット・アクセスは不要

イメージの構成

最良の結果を得るには、ハードウェア・ドライバーが最新のものに更新されている対応 OS のクリーンなインスタンスに、MobileMark 2018 をインストールする必要があります。ベンチマークによってインストールされるアプリケーション・ソフトウェアのリストは、「アプリケーション」セクションを参照してください。MobileMark 2018 には、ベンチマーク実行の準備段階で、自動的にシステムに変更を加える統合構成ツールが含まれています。イメージ構成の詳細については、「[システム構成ツール](#)」セクションを参照してください。

- **管理権限** : 管理権限を持つアカウントが必要です。MobileMark 2018 をインストールして実行するには、同じアカウントを使用する必要があります。

Microsoft Office の削除

MobileMark 2018 は、Microsoft Office 2016 をインストールします。MobileMark 2018 のインストールを試行する前に、UWP Office アプリや Office 365 のインストールを含むすべての Office トレースをシステムから削除する必要があります。既存の Office のインストールを削除しないと、インストールに失敗する可能性があります。

「[Microsoft Office removal tool](#) (PC から Office をアンインストールする)」ページの指示に従って、インストールされている Office のバージョンを削除します。

Office UWP アプリケーションをすべて削除する

- 管理者として PowerShell を開きます。Windows キー + X を押して、[パワー ユーザー] メニューから [Windows PowerShell (管理者)] オプションを選択します。
- PowerShell プロンプトで、次のコマンドを入力して各コマンドの後に Enter キーを押すと、テスト中のシステムでベンチマークの実行を妨げる可能性のあるインストール済みのアプリが削除されます。
 - `Get-AppxPackage *officehub* | Remove-AppxPackage`
 - `Get-AppxPackage *OneNote* | Remove-AppxPackage`
 - `Get-AppxPackage *Office* | Remove-AppxPackage`

MobileMark[®] 2018 のインストール

MobileMark 2018 をインストールする前に、ディスク・イメージ・ソフトウェアを使用してディスクのバックアップを作成してください。アンインストールはサポートされていますが、BAPCo では MobileMark 2018 をインストールする前にイメージのバックアップを作成することを推奨しています。

インストールを開始する前に、テストイメージと競合する既知のソフトウェアがないことを確認してください。ベンチマークによってインストールされるアプリケーションのみがこのリストに記載されているとは限りません。MobileMark 2018 によってインストールおよび使用されるアプリケーションのリストについては、「[アプリケーション](#)」セクションを参照してください。

MobileMark 2018 をインストールするには、以下の手順に従います。

- 1) BAPCo ストアから MobileMark 2018 をダウンロードする
 - a. USB キーまたはほかの外付けドライブにダウンロードした Zip ファイルのバックアップ・コピーを作成し、安全に保管します。

- 2) ベンチマーク・ファイルを展開する
 - a. MobileMark2018 という名前でフォルダーを作成し、ストアからダウンロードした内容を展開します。
- 3) Windows エクスプローラーを使用して、手順 2 で作成された Disc1 フォルダーに移動する
- 4) MobileMark2018_setup.exe ファイルをダブルクリックし、表示されるメッセージに従ってインストールを完了する

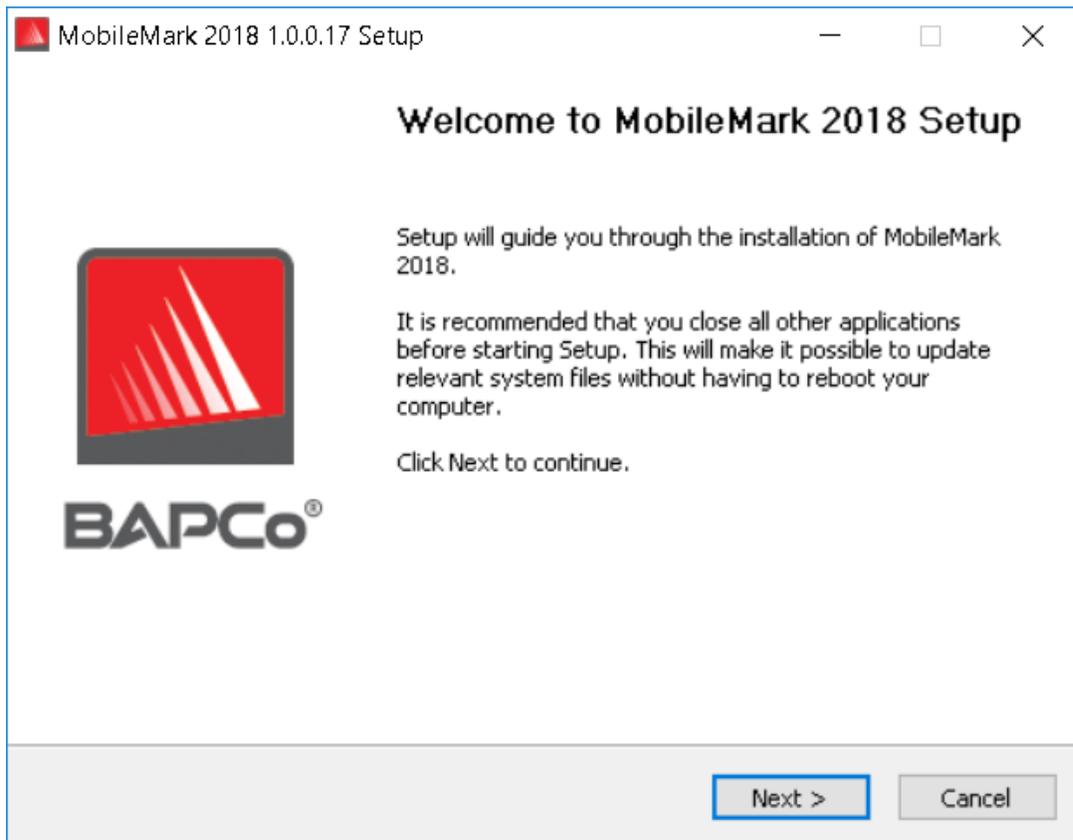


図 1 : MobileMark 2018 のインストーラー・ウィンドウ

BAPCo ソフトウェアの EULA を読み、[I accept the terms of the License Agreement] (使用許諾契約書に同意する) オプションをクリックして同意し、[Next] (次へ) をクリックします。

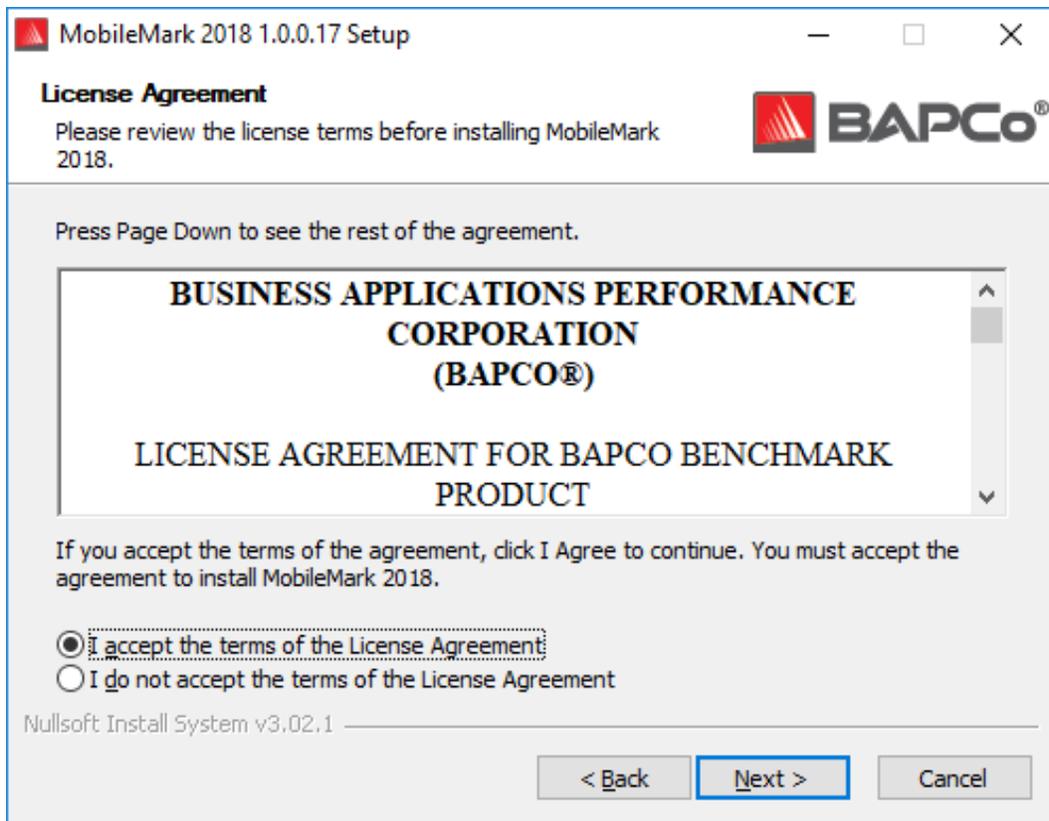


図 2 : MobileMark 2018 の EULA

ベンチマーク・パッケージに記載されているシリアル番号を入力し、[Next] (次へ) をクリックして続行します。

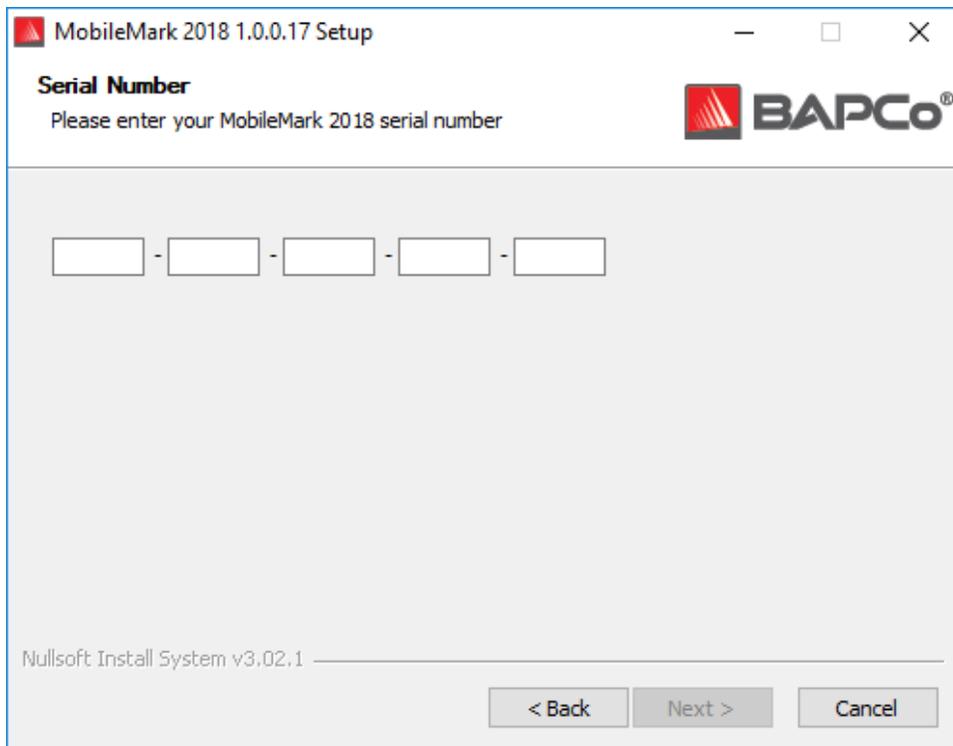


図 3 : 有効な MobileMark 2018 のシリアル番号を入力して、インストールを続行します。

図 4 はベンチマークのデフォルトのフル・インストールを示しています。[Next] (次へ) をクリックすると、すべてのコア・コンポーネント、すべてのシナリオ、およびリザルトブラウザーがインストールされます。



図 4 : MobileMark 2018 のデフォルトのフル・インストール

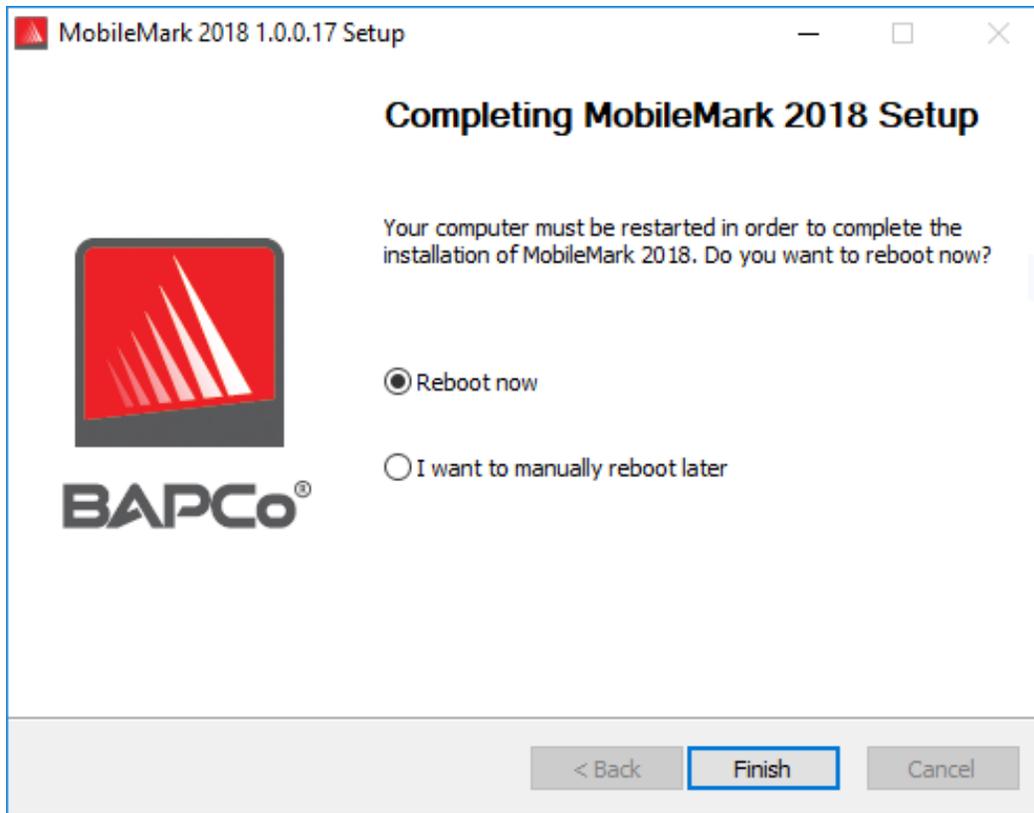


図 5 : MobileMark 2018 が正常にインストールされました

インストールが完了したら、MobileMark 2018 を実行する前に、システムを再起動します。

アンインストール

MobileMark 2018 は Windows の [コントロール パネル] の [プログラムと機能] からアンインストールすることができます。MobileMark 2018 アイコンをアプリケーション・リストから選択し、[アンインストール] を選択します。

MobileMark 2018 の一部アプリケーションの DRM 制限があるため、一度ベンチマークをアンインストールすると、同じシステムイメージには再インストールできなくなります。

MobileMark® 2018 の実行

MobileMark 2018 を起動するには、下の図 6 に示すように、デスクトップ上のショートカットをダブルクリックして、メイン・インターフェイスを起動します。

重要： [User Account Control] (ユーザーアカウント制御) を無効にしていない場合は、アイコンを右クリックし、 [Run as administrator] (管理者として実行) を選択します。この後、統合構成ツールを使用して UAC を無効にすることができます。統合構成ツールの詳細については、「[システム構成ツール](#)」セクションを参照してください。MobileMark 2018 はインストールで使用したユーザーアカウントと同じアカウントで実行する必要があります。

注： MobileMark 2018 はコマンドラインから起動することもできます。詳細については、「[自動実行](#)」セクションを参照してください。



図 6： MobileMark 2018 のインターフェイス

MobileMark[®] 2018 のインターフェイス

MobileMark 2018 には、プロジェクト構成を簡素化するために合理化および再設計されたユーザー・インターフェイスが搭載されています。[Run Benchmark] (ベンチマークを実行) をクリックするだけで、デフォルト構成でベンチマークが実行され、以下の処理が行われます。

- 3つのシナリオすべてのイテレーションを1回実行します。
 - 最初のプロジェクトのプロジェクト名は、「project01」になります。それ以降のプロジェクトには、「project02」、「project03」のように名前が付けられます。
- [Conditioning Run] (コンディショニング実行) が行われますが、パフォーマンス・スコアの計算には含まれません。
- [Process idle tasks] (プロセス・アイドル・タスク) が [OFF] (オフ) に設定されません。
- システム構成ツールが、次のオプションを使用して実行されます。
 - Required items (必須項目) - [ON] (オン) に設定
 - Recommended items (推奨項目) - [ON] (オン) に設定
 - Optional items (オプション項目) - [OFF] (オフ) に設定

Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダー

Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダーには4つの位置 ([最大のバッテリー残量]、[より良いバッテリー]、[高パフォーマンス]、[最も高いパフォーマンス]) があり、MobileMark 2018 テストではそれらを使用できます。

[電源モード (バッテリー)] スライダーは、テスト対象のシステムに [バランス] 電源プランが設定されている場合、または [バランス電源] プランのテンプレートを使用したカスタム電源プランが作成されている場合にのみ、使用できます。

[電源モード (バッテリー)] スライダーおよびバッテリー・セーバー・モードを使用したデバイスのテストの詳細については、「[MOBILEMARK[®] 2018 ベンチマーク・ルール v1.2](#)」セクションを参照してください。

[より良いバッテリー]、[高パフォーマンス]、または [最も高いパフォーマンス] で実行するための手順は、以下のとおりです。

- 1) SUT を AC 電源から取り外します。
- 2) システムトレイのバッテリーアイコンをクリックして、[電源モード (バッテリー)] スライダーにアクセスします。
- 3) 目的のスライダー位置を選択します。
- 4) AC 電源を再接続します。
- 5) SUT を取り外し、システムトレイでバッテリーアイコンをクリックして、電源スライダーの位置が適切に設定されていることを確認します。スライダーは、ステップ 3 で選択した位置に設定されているはずですが。
- 6) AC 電源を再接続します。
- 7) MobileMark 2018 GUI を起動して、テストを開始します。

[最大のバッテリー残量] で実行するための手順は、以下のとおりです。

- 1) スタートメニューを右クリックし、[電源オプション] > [バッテリー] を選択します。
- 2) [バッテリー残量が次の数値を下回ったときにバッテリー節約機能を自動的にオンにする:] オプションがオンになっていることを確認します。
- 3) バッテリー節約機能のしきい値の割合を 100% に設定します。
- 4) システムを AC 電源から取り外します。
- 5) システムトレイでバッテリーアイコンをクリックし、スライダーが [最大のバッテリー残量] に設定されていることを確認します。
- 6) AC 電源を再接続します。
- 7) MobileMark 2018 GUI を起動して設定アイコンをクリックし、構成ツールを起動します。
- 8) [Recommended] (推奨) タブで、[Verify Battery Saver Threshold] (バッテリー節約機能のしきい値の確認) の設定をオフにします。
- 9) メインの MobileMark 2018 ウィンドウに戻り、[Run benchmark] (ベンチマークの実行) ボタンをクリックしてテストを開始します。

結果の生成と表示

MobileMark 2018 のユーザー・インターフェイスには、メインのベンチマーク・ウィンドウで最近実行されたプロジェクトの結果が表示されます。新規インストール後に MobileMark 2018 が起動された場合は、プロジェクトの実行が正常に完了するまで結果は表示されません。

その他の結果の表示

MobileMark 2018 の結果は、テスト対象のシステムのデスクトップ上にある [Results] (結果) フォルダーに、PDF 文書として保存されます。PDF の内容を表示するには、MobileMark 2018 によってインストールされた Google Chrome を使用します。それぞれの PDF ファイルには、テスト対象のシステムに関する詳細が記載された埋め込みの .XML 添付ファイルも含まれています。Chrome の PDF ビューアーは現在 PDF の添付ファイルに対応していないため、XML を表示するには Adobe Acrobat または Foxit PDF などのスタンドアロンの PDF リーダーを使用する必要があります。

結果の送信

BAPCo では、MobileMark[®] 2018 の有効な結果が記載された PDF ファイルを results.bapco.com に提出することを奨励しています。提出にあたって有効とされる結果には、3 つのシナリオすべてのスコアと総合評価が含まれます。ユーザーは、次の方法で結果を送信することができます。

MobileMark 2018 から送信する

- MobileMark 2018 のメインウィンドウにある [Submit Results] (結果を送信) ボタンをクリックして、最新の FDR を送信します。
- 送信フォームダイアログに入力して、[Submit] (送信) をクリックします。
- 注：メインウィンドウに結果が表示されない場合、BAPCo には情報は送信されません。

ウェブブラウザで結果を送信する

PDF ファイルは、results.bapco.com/upload にドラッグ & ドロップすることで、ウェブブラウザから送信することもできます。ドラッグ & ドロップで結果をアップロードするには、次の手順に従います。

- 送信する PDF ファイルを見つけます。
- results.bapco.com に移動し、ウェブページの左側にあるメニューから [Submit results] (結果を送信) オプションをクリックします。
- 必要な情報 (必要に応じて、名前 / 会社、メールアドレス、構成メモなど) を入力します。
- ファイルをページにドラッグ & ドロップするか、[Add files] (ファイルを追加) をクリックして、アップロードする PDF を含むフォルダーを参照します。[Start upload] (アップロードの開始) をクリックします。
- 送信ステータスを確認するためのリンクを含む電子メールが、指定のメールアドレスに送信されます。結果が一般に公開されるまでに、最長で 10 日間かかります。

自動インストール

MobileMark 2018 はコマンドラインからインストールできます。以下のコマンドライン・スイッチを使用できます。

- /S - サイレント・インストール。GUI は表示されません。
- /SN <シリアル番号>。インストーラーにシリアル番号を渡します。

MobileMark 2018 をコマンドラインからインストールするには、コマンドプロンプトを開き、MobileMark2018_Setup.exe ファイルが保存されているディレクトリーに移動して、次のコマンドを実行します。このとき、<1234567891234567891234567> を購入時に提供された 25 ケタのシリアル番号に置き換えます。コマンドラインのシリアル番号は、ダッシュやスペースで区切らないでください。

無人インストールのコマンド例

```
C:¥>start /wait MobileMark2018_Setup.exe /S /SN <1234567891234567891234567>
```

インストーラーの終了コード

完了すると、インストーラーは終了コードを返します (%ERRORLEVEL% に保存されます)。終了コードとその意味は以下を参照してください。

- 0 - 正常
- 3010 - 正常。再起動が必要です。
- 1 - ユーザーがインストールを中断しました。
- 2 - 一般的なインストール・エラー
- 3 - シリアル番号が見つからない、または無効なシリアル番号
- 4 - MobileMark 2018 をインストールする前に、次のアプリケーションをアンインストールする必要があります。
- 5 - MobileMark 2018 (64 ビット版) は 64 ビット版のマシンにのみインストールできます。
- 6 - MobileMark 2018 インストーラーはすでに実行されています。
- 7 - インストーラーは最上位レベルのインストーラー (MobileMark2018_Setup.exe) から実行する必要があります。
- 8 - Disc 2 のバージョンが Disc 1 のバージョンと一致しません。
- 9 - アプリケーションのインストールが見つかりません。無効なインストールです。MobileMark 2018 をアンインストールしてから再インストールしてください。
- 10 - インストール・ディレクトリー名は 145 文字未満にする必要があります。
- 11 - インストーラーが Disc2 メディア (またはフォルダー) を識別できません。

自動実行

MobileMark 2018 はコマンドラインによる実行もサポートしています。以下のリストにサポートされるコマンドライン・パラメーターを示します。コマンドライン・テキストに構文エラーがあると、MobileMark 2018 GUI が起動します。

-p または --project	プロジェクトの名前を指定します。このオプションは、GUI を表示するかどうかや、ダイアログを表示せずにベンチマークを実行するかどうかを決定します。このオプションが指定される場合、GUI は表示されないものと見なされます。
-nc または --noconditioning	システムの [Conditioning Run] (コンディショニング実行) を [OFF] (オフ) にします。
-ep または --processIdleTask	[Process idle tasks] (プロセス・アイドル・タスク) を [ON] (オン) にします。
-h または --help	ヘルプ画面を表示します。
-v または --verbose	詳細モードをオンにします。
-sc または --system config = <str>	コマンドラインでシステム構成ツールのオプションを有効または無効にします (詳細については、「 コマンドラインからのシステム構成 」を参照してください)。

次のコマンド例では、デフォルトのシステム構成項目を使用して MobileMark 2018 を起動し、「test_project」というプロジェクトを作成して、[Process idle tasks] (プロセス・アイドル・タスク) を [ON] (オン) にします。

```
"C:\Program Files (x86)\BAPCo\MobileMark2018\bin\MobileMark 2018.exe" -p  
test_project -ep
```

自動データ収集

MobileMark 2018 のワークロード・マネージャーを使用して、ユーザーは実行の終了時に結果を迅速に処理するためのスクリプトを実行できます。プレースホルダー・スクリプトは、インストールごとに C:\Program Files (x86)\BAPCo\MobileMark2018\Automation\ ディレクトリーに含まれています。

バッテリーの持続時間を開始する前に、MobileMark 2018 でテスト中のシステムの取り外しを促すメッセージが表示されたときに、Unplug.bat が実行されます。

ProcessResults.bat は、MobileMark 2018 が正常に実行された時点で実行されます。ユーザーは、このスクリプトにコマンドを追加して、結果を新しい場所にコピーしたり、環境に固有の追加コマンドを呼び出したりすることができます。

ProcessError.bat は、MobileMark 2018 がエラー状態で終了した場合に実行されます。このスクリプトにコマンドを挿入して、エラーログを新しい場所にコピーしたり、エラーの後処理のために他のコマンドを呼び出したりすることができます。

ベンチマークの設定

ユーザーは、図 7 の赤矢印で示されている「設定」ボタンをクリックして、追加のベンチマーク設定にアクセスできます。

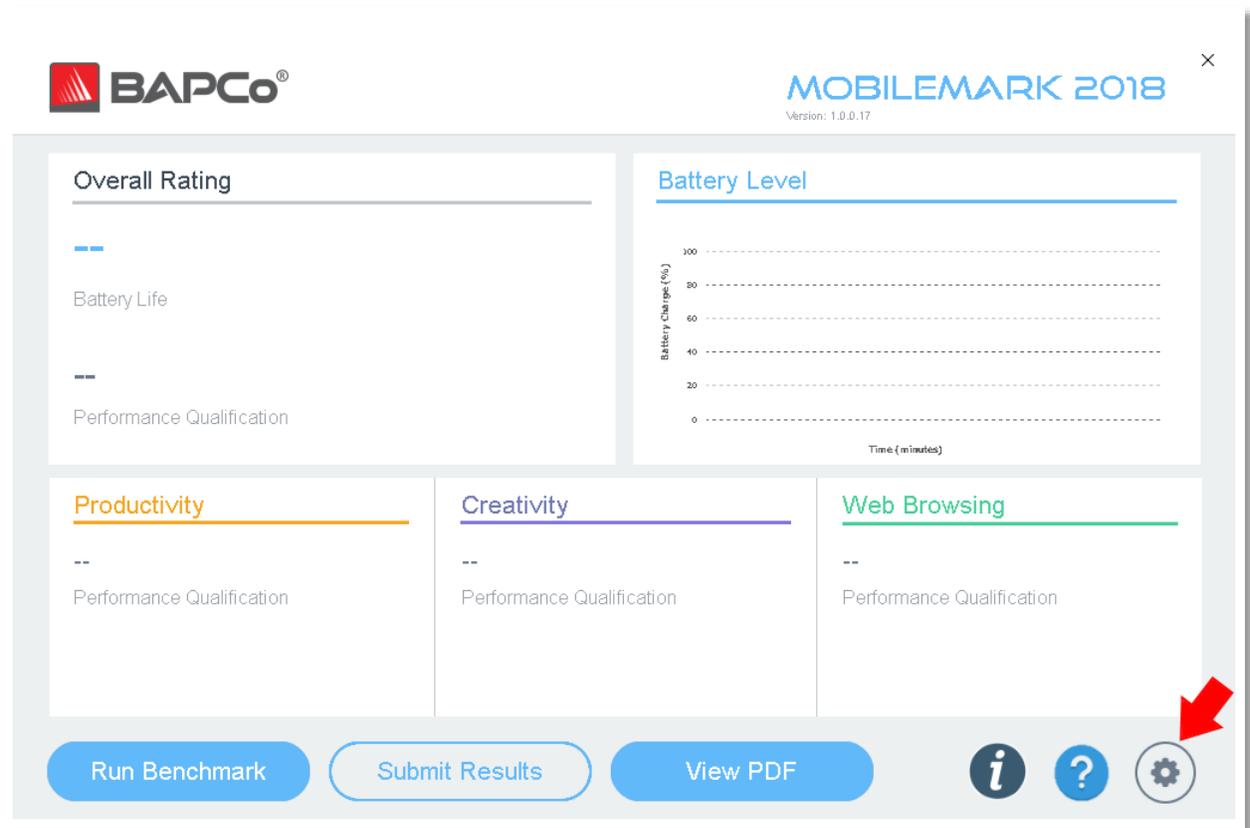


図 7 : MobileMark 2018 の設定ボタン

上の図 7 の赤矢印で示されている [Settings] (設定) ボタンをクリックすると、下の図 8 の詳細設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、ユーザーはイテレーションの既定回数の変更、プロジェクト名の指定、コンディショニング実行の無効化、エネルギーテストの無効化、構成ツールオプションの変更を行うことができます。詳細については、次のセクション「[システム構成ツール](#)」を参照してください。

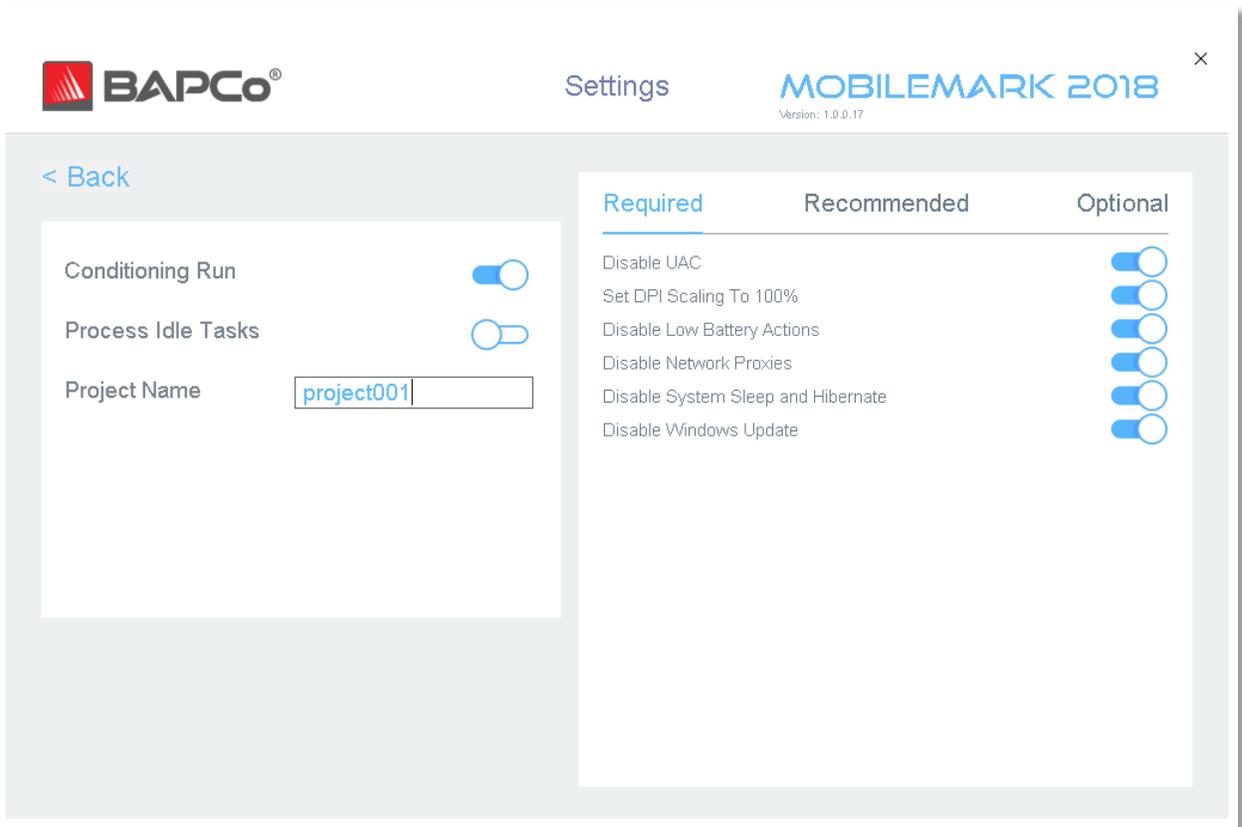


図 8 : MobileMark 2018 の Windows 10 の構成オプション

システム構成ツール

構成ツールは、各テストの開始時に自動的に実行され、テスト対象であるシステム上の各項目の状態が記録されます。この記録作業は、ベンチマーク実行のために各項目が変更される前に行われます。ベンチマーク実行の終了時に、変更された各設定が前の状態に戻ります。

デフォルトでは、構成ツールは後述のように、必須項目と推奨項目を設定します。オプション項目はデフォルトでオフになっています。

ユーザーは、設定アイコンをクリックし、[Recommended] (推奨) 構成タブまたは [Optional] (オプション) 構成タブに移動して、デフォルトの項目を変更できます。GUI を使用して [Required] (必須) 設定を無効にすることはできません。

システム構成項目の追加制御が必要な場合は、「[コマンドラインからのシステム構成](#)」セクションを参照してください。

以下に、システム構成ツールを使用して適用できる構成オプションを優先事項とともに示します。一部の項目は、項目の説明に記載されているように、サポートされている特定のオペレーティング・システムにのみ適用される場合があります。各構成項目のコマンドライン文字列の例も説明に含まれています。

必須

ベンチマークで実行する必要がある構成の変更を行います。これらの項目はデフォルトで有効になっており、無効にすることはできません。

[Disable User Account Control (UAC)] (ユーザーアカウント制御 (UAC) の無効化)

[Disable User Account Control (UAC)] (ユーザーアカウント制御 (UAC) の無効化) は、ベンチマークの実行中に管理者に対する昇格時のプロンプトが表示されないようにします。この変更を適用するには、システムを再起動する必要があります。

[Set DPI scaling to 100%] (DPI スケールを 100% に設定)

デスクトップのスケールリングを 100% に設定します。高解像度ディスプレイでのエラーが回避されます。

[Disable Low Battery Actions] (低残量バッテリーの動作の無効化)

バッテリーが低残量に達してもシステムがシャットダウンしたり警告が表示されたりするのを回避します。

[Disable Network Proxies] (ネットワーク・プロキシの無効化)

インターネット接続設定のプロキシサーバーの構成を無効にします。

[Disable System Sleep and Hibernate] (システム スリープと休止状態の無効化)

システムがスリープ状態または休止状態に入るのを回避し、[Require password on wake] (ウェイク時にパスワードが必要) 設定を無効にします。

[Disable Windows Update] (Windows Update の無効化)

Windows Update サービスを無効にします。

[Enable Windows Search] (Windows の検索の有効化)

Windows の検索サービスが有効で実行されていることを確認します。

推奨

反復可能なスコアを取得し、エラーの発生を最小限に抑えるために推奨される設定変更を行います。推奨項目はデフォルトでオンになっています。推奨項目は、構成項目の横にあるスライダーをクリックするか、コマンド・ライン・オプションを使用して無効にすることができます。

[Create BAPCo Power Scheme] (BAPCo 電源設定の作成)

「BAPCo MobileMark 2018」という名前で、システムの現在アクティブな電源設定に基づいた新しい電源設定を作成します。この設定を適用すると、それ以降の電源プロファイル設定の変更はすべて、新規に作成した電源設定に適用されます。このオプションをオフにすると、電源プロファイル設定の変更はすべて、現在アクティブな電源設定に適用されます。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= PowerScheme= on|off"
```

[Set Power Plan Type to "Balanced"] (電源プランの種類を [バランス] に設定)

アクティブな電源設定の [Power Plan Type] (電源プランの種類) オプション (または [Power Plan Personality] (電源プラン設定)) を [Balanced] (バランス) に設定します。この設定は、省電力を優先する全設定をアクティブな電源プランにタグ付けします。ドライバーおよびアプリケーションはこの設定を照会して、それぞれのパフォーマンスと省電力の動作を決定する場合があります。このオプションは [Create BAPCo Power

Scheme] (BAPCo 電源設定の作成) オプションがオンかオフかに関係なく使用することができます。[Create BAPCo Power Scheme] (BAPCo 電源設定の作成) がオフの場合、[Set Power Plan Type] (電源プランの種類の設定) は現在アクティブな電源設定に適用されます。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= PowerPlan= on|off"
```

[Set CPU Adaptive Mode] (CPU 適応モードの設定)

AC 電源と DC 電源の両方で、CPU パフォーマンス状態の最小値を 5% に設定し、CPU パフォーマンス状態の最大値を 100% に設定します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= SetCPUAdaptiveMode= on|off"
```

[Disable Battery Saver Dimming] (バッテリー節約機能による減光の無効化)

バッテリーセーバーが作動している場合、画面の減光を無効にします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= DisableBatterySaverDimming= on|off"
```

[Verify Battery Saver Threshold] バッテリー節約機能のしきい値の検証

バッテリー節約機能のしきい値を 20% 以下に設定します。Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダーを [最大のバッテリー残量] の位置にしてテストする場合以外は、このオプションをオンのままにしておきます。詳細については、「[WINDOWS 10 の \[電源モード \(バッテリー\)\] スライダー](#)」セクションを参照してください。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= VerifyBatterySaverThreshold= on|off"
```

[Disable Disk Defrag] (ディスクデフラグの無効化)

デフラグのスケジュール・タスクを無効にします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= DiskDefrag= on|off"
```

[Disable Windows Error reporting] (Windows エラー報告の無効化)

Windows エラー報告ツールによってエラー報告がウィンドウに表示されるのを回避します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= ErrorReporting= on|off"
```

[Disable Windows Lock screen] (Windows ロック画面の無効化)

ロック画面を無効にして、アプリケーション入力のブロックを回避します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= DisableLockScreen= on|off"
```

[Disable Windows Pop-ups] (Windows ポップアップの無効化)

システム トレイですべてのポップアップ通知（バルーンヒント）を無効にします（Windows 7 のみ）。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= WindowsPopUps= on|off"
```

[Disable Screen Saver and Monitor Timeout] (スクリーンセーバーとモニター・タイムアウトの無効化)

スクリーンセーバーをオフにします。AC と DC オプションの両方で電源プロファイルのディスプレイ・タイムアウトを無効にします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= ScreenSaver= on|off"
```

[Disable Windows Sidebar/Gadgets] (Windows サイドバー/ガジェットの無効化)

ガジェットをオフにします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= WindowsSideBar= on|off"
```

[Disable Desktop Slide Show] (デスクトップ・スライド・ショーの無効化)

デスクトップ背景の変更を回避します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= DesktopSlideShow= on|off"
```

[Disable Windows Defender] (Windows Defender の無効化)

Windows Defender を無効に設定します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= WindowsDefender= on|off"
```

[Disable Windows Firewall] (Windows ファイアウォールの無効化)

Windows 10 のファイアウォールですべての送受信トラフィックが許可されるように構成します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= DisableWindowsFirewall= on|off"
```

[Set Font Smoothing] (フォント スムージングの設定)

Windows のフォント スムージングをオンにします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= SetFontSmoothing= on|off"
```

任意

特殊なケースでは、反復可能なスコアを得るために通常必要のない構成の変更を行います。オプション項目はデフォルトでオフになっています。

[Disable Hard Disk Timeout] (ハードディスクのタイムアウトの無効化)

ハードディスクがスリープ状態になるのを回避します。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= HardDiskTimeout= on|off"
```

[Disable System Restore] (システムの復元の無効化)

Windows のシステムの復元を無効にします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= SystemRestore= on|off"
```

[Ignore Laptop Lid Close] (ノートブック PC を閉じてでも無視)

ベンチマークの実行中に蓋が閉じられても、システムがスリープ状態にならないようにします。

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p test_project  
-sc= LaptopLidClose= on|off"
```

コマンドラインからのシステム構成

コマンドラインから MobileMark 2018 を実行するとき、ユーザーがコマンドラインでオプションを指定しない限り、システム構成項目はデフォルトに従って設定されます。

例：

```
"C:¥Program Files (x86)¥BAPCo¥MobileMark2018¥bin¥MobileMark 2018.exe" -p  
test_project -sc= PowerScheme= Off"
```

上記のコマンドは、「test_project」というプロジェクトでベンチマークを実行し、デフォルトの1回のイタレーションとコンディショニング実行を行います。構成ツールの [Create BAPCo Power Scheme] (BAPCo 電源設定の作成) オプションが [Off] (オフ) に設定されます。MobileMark 2018 では、BAPCo 電源設定はテスト用にシステム構成を変更する前には作成されません。

ユーザーがシステム構成項目の設定を希望しない場合は、すべてのシステム構成項目をコマンドラインで [Off] (オフ) に設定する必要があります。

[Recommended] (推奨) および [Optional] (オプション) の構成ツール項目は、「-sc all=On|Off」で切り替えることができます。これにより、ユーザーは、コマンドラインで各項目を指定することなく、すべてのシステム構成オプションを無効にすることができます。
[Required] (必須) として表示されている構成項目は、無効にできません。

ベンチマークの使用状況

このサブセクションでは、ベンチマーク実行中の MobileMark 2018 の動作について説明しています。

ベスト・プラクティス

信頼性のある再現可能な結果を得るために、BAPCo では、MobileMark 2018 インターフェイスのデフォルト設定の使用を推奨しています。デフォルト設定で実行するには、MobileMark 2018 を起動して [Run Benchmark] (ベンチマークを実行) をクリックします。

- [Conditioning Run] (コンディショニング実行) : 有効
- [Process idle tasks] (プロセス・アイドル・タスク) : 無効
- DC 電源使用時にパフォーマンスのスライダーを [Best performance] (最も高いパフォーマンス) に設定
 - DC 電源使用時には、パフォーマンスのスライダーを変更する必要があります。
AC 電源用のスライダー構成では、DC 電源用の設定は変更されません。
- DC 電源で、[Display brightness] (ディスプレイの明るさ) を 200 nit に設定する必要があります。詳細については、「[ベンチマーク・ルール](#)」セクションを参照してください。
- BAPCo ベンチマークを使用してパフォーマンスまたはバッテリー持続時間を評価する場合、ハードウェア・メーカーから最新の実稼動ドライバーをインストールする必要があります。オペレーティング・システムに含まれるドライバーはデバイスに対応していない場合や、デバイスメーカーから新しいドライバーが提供されている場合もあります。不適切なドライバーを使用すると、パフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

ヘッドアップ・ディスプレイ (HUD)

デスクトップの右上に表示されるヘッドアップ・ディスプレイでは、現在実行中のプロジェクトに関する詳細を確認することができます。



図 11 : MobileMark 2018 の HUD。

[Process idle tasks] (プロセス・アイドル・タスク)

ベンチマークのワークロードを実行する前に、MobileMark 2018 のワークロード・マネージャーが 120 秒間一時停止し、システムを安定化させます。120 秒が経過すると、ワークロード・マネージャーによってプロセス・アイドル・タスク・コマンドが実行されます (このオプションが選択されている場合)。アイドルタスクのキューがクリアされると、ベンチマークのワークロードが開始します。注：プロセス・アイドル・タスクの完了時間はシステムによって異なります。

キーボード/マウス入力のブロック

ワークロードの実行が開始すると、ワークロード・マネージャーによってシステムがロックされ、マウスやキーボードから誤って入力した場合でもワークロードの自動化が中断されないように保護されます。ワークロード・マネージャーは現在のプロジェクトについて選択したシナリオの実行を続行し、実行が正常に完了すると、結果を表示します。キーボードとマウスの入力ブロックの詳細については、「[進行中の実行を停止する](#)」セクションを参照してください。

エラー処理

デフォルトでは、プロジェクトの実行中に MobileMark 2018 でエラーが発生すると、ワークロード・マネージャーによってエラーが記録され、充電が残っている限りシステムを再起動します。バッテリー残量がなくなった場合、システムはシャットダウンされ、次の再起動時に MobileMark が復元します。

MobileMark 2018 では、BENCHMARK_TIMEOUT_MULT 環境変数を使用して、エラー処理のタイムアウトをさらに制御することができます。この変数を構成して、エラーが発生して再試

行または実行停止するまでのベンチマーク・スクリプトの待機時間を増やすことができます。BENCHMARK_TIMEOUT_MULT のデフォルト値は 1.0 です。例えば、この値を 2.0 に増やすとエラー処理のタイムアウトが倍になり、3.0 に増やすとタイムアウトが 3 倍になります。

進行中の実行を停止する

進行中のベンチマークの実行を停止する必要がある場合は、以下の手順に従います。

1. Ctrl + Alt + Delete キーを同時に押して、Windows のパスワード変更画面を表示します。
2. [Cancel] (キャンセル) をクリックしてデスクトップに戻ります。
3. キーボードとマウスの入力が有効になります。
4. 画面の右下にあるシステムトレイに移動し、下図の BAPCo アイコンを見つけます。
5. アイコンを右クリックし、[Stop] (停止) を選択します。



図 13 : BAPCo のシステムトレイアイコン。緑の三角形は MobileMark 2018 が実行中であることを示しています。

リファレンス・システム

MobileMark 2018 のパフォーマンス・スコアは、リファレンス・システムを使用して標準化されます。リファレンス・システムでは、3つのシナリオそれぞれと、MobileMark 2018 のパフォーマンス全体の性能評価に対して、「1000」のスコアを使用します。テスト中のシステムのバッテリー持続時間も、時間と分の単位で報告されます。リファレンス・システム構成は以下のとおりです。

Lenovo[®] ThinkPad[™] T480s

- CPU：インテル[®] Core[™] i5-8250U プロセッサー (1.60GHz)
- グラフィックス：インテル HD グラフィックス 620
- 解像度：1920x1080
- ディスプレイ輝度：200 nit
- OS ビルドバージョン：Windows 10 RS4 build 10.0.17134.228 (64 ビット)
- RAM：1 x 8GB (シングルチャンネル)
- ストレージ：256GB ソリッドステート・ドライブ、PCIe-NVMe OPAL2.0 M.2

アプリケーション

インストールされ、MobileMark 2018 で使用されるアプリケーションは次のとおりです (シナリオ別にまとめています)。一部のアプリケーションは複数のシナリオに表示されますが、インストールされるのはアプリケーションの1つのインスタンスのみです。

[Productivity] (生産性)

- Adobe® Acrobat® Pro DC
- AutoIT 3.3.14.2
- Google Chrome™
- Microsoft® Excel® 2016
- Microsoft® OneNote® 2016
- Microsoft® Outlook® 2016
- Microsoft® PowerPoint® 2016
- Microsoft® Word® 2016
- Windows Zip

[Creativity] (創造性)

- Adobe® Photoshop® CC 2017
- Adobe® Lightroom® Classic CC
- CyberLink PowerDirector® 2015

[Web Browsing] (ウェブ・ブラウジング)

- Google Chrome™
- Microsoft 映画 & テレビ

シナリオ

ここでは、MobileMark 2018 のシナリオとワークロードについて説明します。

[Productivity] (生産性)

[Productivity] (生産性) シナリオは、文書の作成と編集 (メール結合、文書比較、および PDF 変換)、スプレッドシート・データの操作 (データモデリング、財務予測)、メールの作成および管理、プレゼンテーションの編集、ソフトウェア開発 (コードのコンパイル)、アプリケーションのインストール、およびファイルのアーカイブなどの生産性に関する使用をモデル化しています。

[Creativity] (創造性)

[Creativity] (創造性) シナリオは、デジタル写真の編集 (HDR およびパノラマ写真の作成)、デジタル写真のカタログ化 (カタログの整理、顔検出を使用した人物のグループ化)、デジタルビデオの編集 (さまざまなソースクリップを使用したタイムラインの作成および出力のトランスコーディング) をモデル化しています。

[Web Browsing] (ウェブ・ブラウジング)

[Web Browsing] (ウェブ・ブラウジング) のシナリオでは、Google Chrome を使用して 26 のローカル・ウェブページを閲覧します。Microsoft 映画 & テレビは、ローカルで 8 分間の 4K ビデオクリップを 24 fps により全画面再生するために使用されます。

サポート

MobileMark 2018 の技術サポートは、<https://bapco.com/support> を参照するか、support@bapco.com まで電子メールでお問い合わせください。サポートに連絡する際は、以下の情報をご用意ください。

- MobileMark 2018 のバージョン (例：1.0.0.123)
- システムの構成情報
- 問題を再現する詳細手順
- エラー率 (例：100%、50%)
- 実行に失敗した際のベンチマーク・エラー・ログのアーカイブ
 - インストール・フォルダーを見つけます
(C:\Program Files (x86)\BAPCo\MobileMark2018\Config など)。
 - MobileMark2018.db ファイルをコピーします。
 - インストールの問題を報告する場合は、ベンチマーク・インストール・ログを見つけます。
 - %TEMP%\MobileMark2018_Disc1.log
 - WinZip や WinRAR などを使用して上記のデータベース・ファイルとログをアーカイブします。
 - サポート・リクエスト・メールにアーカイブファイルを添付して BAPCo サポートに送信するか、<https://bapco.com/support> のフォームからアーカイブファイルをアップロードします。
 - 複数のエラーを報告する場合は、レポートする各問題の説明も含めてください。

MobileMark[®] 2018 ベンチマーク・ルール

v1.2

このドキュメントでは、BAPCo MobileMark 2018 ベンチマークの実行結果の公開を管理するルールについて説明します。該当する結果の公開を希望するライセンシーは、本書、または MobileMark 2018 ベンチマークの結果の実行およびレポートに関連した BAPCo が提供するその他のドキュメントに記載のすべてのルールおよび規則を遵守する義務があります。BAPCo は本書に記載のルールをいつでも変更できる権利を有しています。ライセンシーは実行および公開に関するルールの最新情報について、BAPCo のウェブサイト (www.bapco.com) を参照してください。詳細については、ソフトウェア使用許諾契約を参照してください。

ベンチマークの実行

ワークロード・マネージャー

すべてのベンチマークは、MobileMark 2018 ワークロード・マネージャーを使用して実行する必要があります。このユーティリティーは MobileMark 2018 ベンチマークを実行する実行可能プログラムです。これには、テスト対象のシステムの最終的なベンチマーク結果を生成するモジュールも含まれます。公開したすべての結果は、ベンチマークの完全で正常な実行から派生した結果のみである必要があります。すべてのテストは MobileMark 2018 ソフトウェアを一切変更せずに実行する必要があります。

MobileMark 2018 の公式結果の生成に使用したハードウェアとソフトウェアの組み合わせは、BAPCo の可用性基準で定義したように、一般が利用できる必要があります。以下の特定のルールが適用されます。

オペレーティング・システム

結果の生成と公開に使用するオペレーティング・システムは、元のソフトウェア・ベンダーによって一般公開されたりリリース版である必要があります。対応 OS の最新のリストは、製品マニュアル (www.bapco.com) を参照してください。オペレーティング・システムのベンダー以外のベンダー（グラフィックス・ドライバー、ディスクドライバー、マザーボード設定ファイル、マルチメディア・ドライバーなど）によってリリースされ、管理されている特定のドライバーは、これらのドライバーが一般に利用可能であり、該当するドライバーの元のベンダーによるリリース品質である限り、アップグレードすることができます。ライセンシーは、オペレーティング・システム・サービス・パック、API 更新プログラム (Direct X など) のほか、その他の更新プログラムも（一般に利用可能であり、元のベンダーによるリリース品質で、ベンチマークのオペレーティング・システム要件を満たしている限り）使用することができます。ライセンシーは個々のソフトウェア・ベンダーの使用許諾契約を参照し、ベンダーによるベンチマークの制約事項に準拠していることを確認する必要もあります。

システム構成

MobileMark 2018 の結果の整合性を確保するために、テストシステムは、そのテストの実行中は同じハードウェア構成とソフトウェア設定を維持する必要があります。ハードウェア構成やソフトウェア設定を変更すると、結果が無効になります。

ハードウェア

MobileMark 2018 の公式結果の生成に使用されるシステム・ハードウェアは、公開時点で一般に入手可能であるか、または公開から 60 日以内に一般に入手可能になる必要があります。システムは、公開から 60 日以内に製造元から完全なプラットフォームとして購入可能になる必要があります。あるいは、OEM から入手できないシステムであっても、そのシステムの個々のコンポーネントが公開時点または公開より 60 日以内に複数のベンダーから一般に入手または購入できる場合は、ライセンシーはそのシステムの結果をレポートすることができます。ただし、この 60 日の猶予期間はシステム・ソフトウェアには適用されません。使用するすべてのソフト

ウェアは一般に入手可能で、元のソフトウェア・ベンダーによるリリース品質である必要があります。

ソフトウェア

MobileMark 2018 の公式結果の生成に使用される OEM ソフトウェアには猶予期間がないため、結果の公表直後にリリース品質である必要があります、元のベンダーから一般に入手可能である必要があります。

パフォーマンスまたはバッテリー持続時間の向上

以下の条件下では、ソフトウェア・ユーティリティやその他の手法の使用など、パフォーマンスまたはバッテリー持続時間の向上を使用することができます。パフォーマンスまたはバッテリー持続時間を向上させるソフトウェアは、リリース品質であり、元のベンダーから一般に入手可能である必要があります。パフォーマンスまたはバッテリー持続時間を向上させる手法は、一般の人が広く利用できるものである必要があります。いずれかの方法を使用する場合は、それを文書化して FDR 送信に含める必要があります。パフォーマンスまたはバッテリー持続時間を向上させる技術によって、テスト対象のシステムや MobileMark 2018 ソフトウェアの完全性が損なわれてはなりません。MobileMark 2018 のバッテリー持続時間またはパフォーマンスの評価スコアを向上させる目的で、特に最適化されたドライバーまたはその他のソフトウェアを使用することは、明示的に禁止されています。BAPCo は、単独の裁量で、該当するツールまたは技術の使用を確認し、送信された結果を無効にする権利を有しています。

ワイヤレス接続

MobileMark 2018 では、システムのワイヤレス・ネットワーク・アダプターがオンで、テスト中はインターネットに接続されていないワイヤレス・ネットワークに関連付けられる必要があります。

画面の輝度

テストシステムのディスプレイ輝度は、DC（バッテリー）電源ですべて白い画面の中央で測定して 200 nit 以上の値に設定する必要があります。テスト中にスクリーンの減光または周囲光センサー技術を使用して画面の明るさを制御することは、許可されません。画面の輝度設定は、テスト中は維持する必要があります（画面オフまたはモダン スタンバイを使用している場合を除く（以下を参照））。

システム・ディスプレイが DC（バッテリー）電源ですべて白い画面の中央で測定して 200 nit の輝度に達しない場合、画面の輝度は、テスト中に DC（バッテリー）電源で測定された最大輝度の値に設定する必要があります（画面オフやモダン スタンバイの期間を除く）。DC（バッテリー）電源で 200 nit の輝度に達しないシステム・ディスプレイについては、文書化して FDR 送信に含める必要があります。

画面オフ

オペレーティング・システムが対応する画面オフ機能は、以下の条件で使用できます。

- 画面オフのタイムアウト値は、DC 電源使用の場合最低 5 分に設定する必要があります。
- 画面オフが発生するのは、ベンチマークのアイドル期間中のみ、それぞれのアイドル期間のうち 5 分間経過した時点の後のみです。

モダン スタンバイ

オペレーティング・システムが対応するモダン スタンバイは、以下の条件で、テスターの裁量により使用できます。

- 画面オフのタイムアウト値は、DC 電源使用の場合最低 5 分に設定する必要があります。

- モダン スタンバイが発生するのは、ベンチマークのアイドル期間中のみ、それぞれのアイドル期間のうち 5 分間経過した時点の後のみです。
- テスト システム が、Microsoft モダン スタンバイ 仕様 (<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-hardware/design/device-experiences/modern-standby>) の要件を満たしている必要があります。
- スタンバイ / 休止状態：上記のルールに従ってモダン スタンバイが使用される場合を除き、オペレーティング・システムが対応しているスタンバイ / 休止状態の機能は使用できません。

Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダーとバッテリー・セーバー・モード

Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダーは、テスト中のシステムを構成するために使用できます。ただし、テスト中を通してスライダーの位置が同じであることが条件となります。スライダー位置が [より良いバッテリー]、[高パフォーマンス]、[最も高いパフォーマンス] の場合、バッテリーセーバーのしきい値を 20% 以下に、[バッテリー節約機能がオンのときは画面の明るさを下げる] 設定をオフにする必要があります。テスト中にスライダーの [最大のバッテリー残量] 位置を使用する場合、バッテリーセーバーのしきい値を 100% にして、テスト中を通してバッテリーセーバーを有効にしておく必要があります。[バッテリー節約機能がオンのときは画面の明るさを下げる] の設定をオフにする必要があります。スライダーを [最大のバッテリー残量] に構成する方法の詳細については、MobileMark 2018 ユーザーガイドの「Windows 10 の [電源モード (バッテリー)] スライダー」の項を参照してください。

完全公開レポート

公開されたすべての結果について、ワークロード・マネージャーで完全公開レポート (FDR) を生成する必要があります。この FDR には、MobileMark 2018 のバッテリー持続時間の評価と性能評価、および 3 つの各シナリオに対する性能スコアを含める必要があります。テスト対象のシステムの構成に関する追加情報も、FDR に含める必要があります。このレポートの形式と

このレポートに含める情報は BAPCo により決定されます。FDR を変更することはできません (FDR を変更するとその FDR が無効になります)。

結果の公開

BAPCo は、一般に公開されているすべての結果について、FDR を BAPCo ウェブサイト (<https://results.bapco.com>) に送信することをライセンシーに求めています。結果は、次のいずれかの方法で送信できます。

- 1) 実行が完了したら、ベンチマーク GUI から [Submit Results] (結果を送信) ボタンをクリックする
- 2) <https://results.bapco.com> のオンライン送信フォームを使用して結果をアップロードする
- 3) 電子メールに添付して report@bapco.com に送信する

ライセンシーが BAPCo ウェブサイト以外の方法で結果を公開する場合、ライセンシーは BAPCo のリクエストより 5 営業日以内に FDR を送信することに同意するものとします。ライセンシーは、公開されたすべての結果について FDR 記録を保持する責任があります。

ライセンシーが BAPCo に送信するすべての FDR は 10 営業日のレビュー期間の対象となります。このレビュー期間中、すべての BAPCo メンバーは送信された FDR にチャレンジするか、FDR の対案を送信することができます。チャレンジが行われた場合、または FDR の対案が送信された場合、BAPCo は FDR データベースに含める FDR を決定することができます。

結果の公開にはすべて、少なくともシステムモデル番号に加え、そのシステムモデルの出荷時の構成と実際にテストされたシステムモデルの構成との差異 (ある場合) を明記する必要があります。

MobileMark 2018 を実行するための最小システム要件を満たしていないシステムで収集した結果は、FDR データベースに含めるために BAPCo に公開または送信できません。しかし、BAPCo は MobileMark 2018 の最小システム要件を満たすか、または超えるシステム構成に対してのみ、テクニカルサポートを提供します。

MobileMark 2018 のすべての結果の公開には、同一の実行結果からの MobileMark 2018 のバッテリー持続時間スコアおよび MobileMark 2018 パフォーマンス全体の評価スコアが含まれる必要があります。

MobileMark 2018 のすべての結果の公開には、請求が送信されたオンライン結果データベースへのリンクが含まれている必要があります。

販売状況

MobileMark 2018 の結果を公開する場合、テストに使用したシステムは、公開時点で一般に購入可能であるか、または公開から 60 日以内に一般に購入可能になる必要があります。ただし、この 60 日の猶予期間はシステム・ソフトウェアには適用されません。使用するすべてのソフトウェアはリリース品質であり、元のソフトウェア・ベンダーから一般に入手可能である必要があります。

FDR 処理

送信された FDR は BAPCo によって処理され、以下のように分類されます。

公開用にリリース済み - 送信時における公開用の結果はリリースされています。

却下済み - 送信時における公開用の結果は却下されています。

公開用にリリース済みとしての分類は、BAPCo によって結果が検証または推薦されるものではありません。送信するライセンシーは、完全で有効な FDR が生成されている限り、結果を自由に公開することができます。ライセンシーは BAPCo のリクエストより 5 営業日以内に有効な FDR を BAPCo に送信することに同意します。BAPCo は送信された FDR を頻繁に監査し、本書またはその他の MobileMark 2018 ドキュメントに記載される規則を遵守していないライセンシーに対し、付与した使用許諾を取り消す権利を有します。却下済みとして分類された FDR がライセンシーに返却された場合、当該問題が BAPCo によって解明されるまで、ライセンシーは却下された結果の公開を直ちに停止する必要があります。結果の公開にはすべて、少なくともシステムモデル番号および、記載したモデル番号の構成とテスト対象のシステム構成との差異 (ある場合) を明記する必要があります。MobileMark 2018 のすべての結果の公開には、同一

の実行結果からの MobileMark 2018 のバッテリー持続時間スコアおよび MobileMark 2018 パフォーマンス全体の評価スコアが含まれる必要があります。MobileMark という用語は Business Applications Performance Corporation の登録商標であり、MobileMark 2018 ワークロード・マネージャーで生成されたパフォーマンス指標と併用する場合にのみ使用することができます。その他のパフォーマンス特性を作成する場合、ワークロード・マネージャーで生成されたパフォーマンス指標から派生したものである必要があります。MobileMark および MobileMark 2018 という用語をこのような特性を表現するパフォーマンス指標として使用することはできません。

非 OEM プラットフォームでの結果の公開

BAPCo は FDR の送信を受け入れ、「非 OEM」プラットフォームの比較のために MobileMark 2018 を使用してパフォーマンス・テストに基づいたバッテリー持続時間の指標の公開を許可します。これには、完全なプラットフォームとして OEM から出荷されたシステム以外のシステムでの、パフォーマンス・テストに基づいたバッテリー持続時間の比較も含まれます。このような比較の例としては、別のハードディスクに交換したり、テストシステム内の RAM 容量を変更したり、ベンチマーク結果への影響を実証したりすることが挙げられます。BAPCo に送信された結果や非 OEM プラットフォームで公開される結果は、付随する FDR の送信やどのような種類の公開においても Modified (修正版) とマークする必要があります。MobileMark 2018 のすべての結果の公開には、同一の実行結果からの MobileMark 2018 のバッテリー持続時間スコアおよび MobileMark 2018 パフォーマンス全体の評価スコアが含まれる必要があります。

競合比較結果の公開

ライセンサーは、以前 results.bapco.com に公開されたことのある競合他社の MobileMark 2018 の結果である場合に限り、その競合他社のシステムで MobileMark 2018 の結果を公開することができます。競合他社の MobileMark 2018 の結果が一般公開されていない場合、その競合他社は BAPCo より通知を受け取ってから 15 営業日の間に、自社システムについての FDR の対案を提出するか、送信された FDR (結果) にチャレンジすることができます。送信された結果は、この 15 日の待機期間が経過し、FDR の対案に関するすべての事項が BAPCo によって

解明されるまでは公開されません。15 日間が経過しても競合他社より回答がない場合、公開する側の元のライセンサーによって公開が開始される場合があります。MobileMark 2018 のすべての結果の公開には、同一の実行結果からの MobileMark 2018 のバッテリー持続時間スコアおよび MobileMark 2018 パフォーマンス全体の評価スコアが含まれる必要があります。

前述の手続きが適用されずに、業界専門誌により競合比較を行う目的で結果が公開される場合もあります。ただし、公開については、本書に記載のその他すべての規則の対象となります。